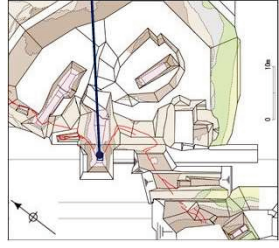
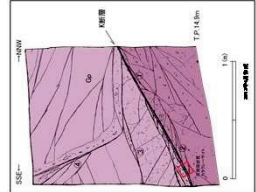


・D-1トレンチ1-1ピットから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
 ➢ (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 ➢ (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 ➢ (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 ➢ (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。
 ➢ 岩片は少ない。
 ➢ (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

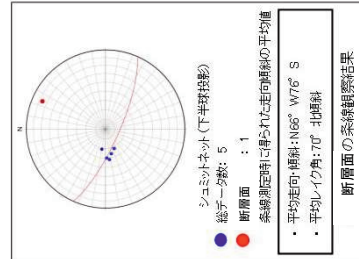


試料採取位置図

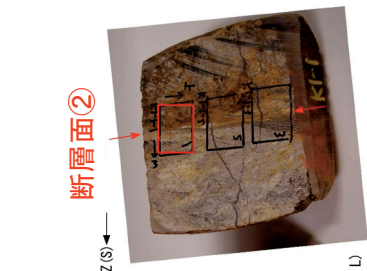


D-1トレンチ1-1ピット

最新活動ゾーン

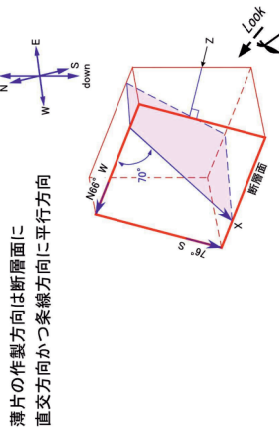


断層面の糸線観察結果



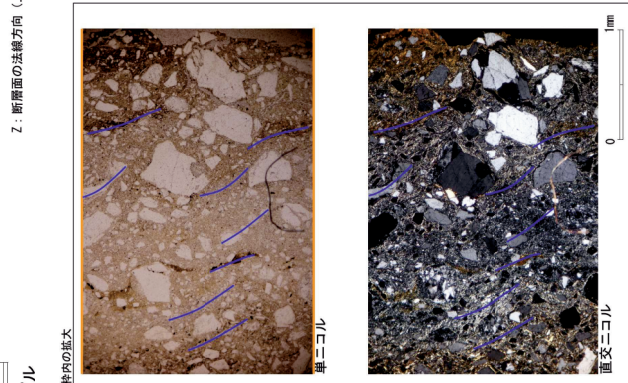
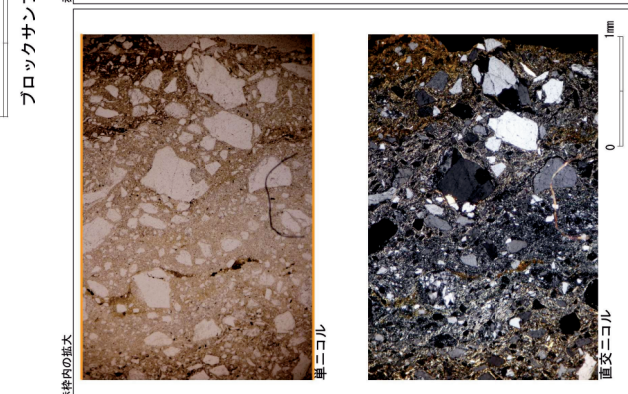
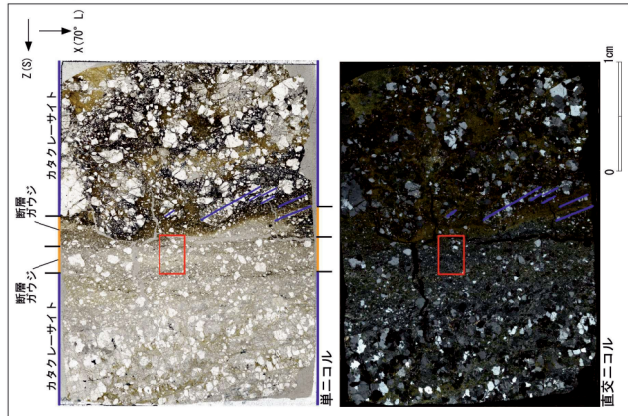
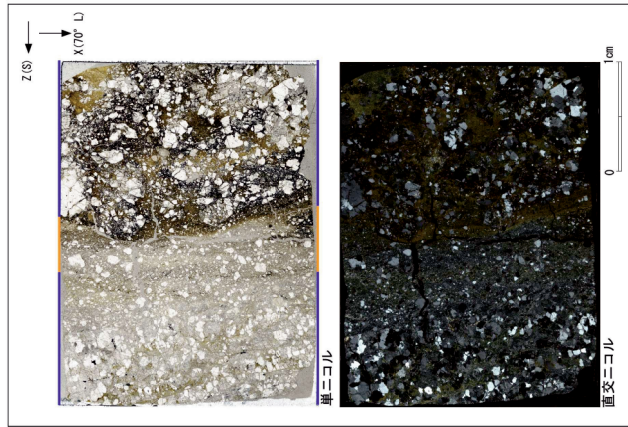
断層面②

※断層面②は最新活動面



走向・傾斜 N66° W76° S

X: 糸線方向 (下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向 (上盤側を正とする)



凡例

断層ガウジ	断層面
カタクレーサイト	R面
	P面

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)

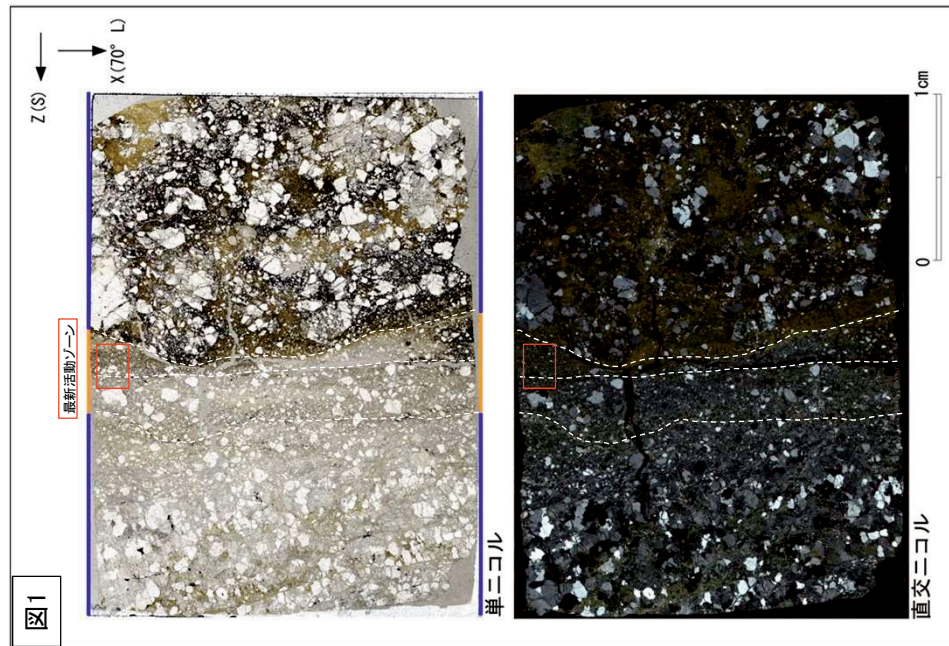
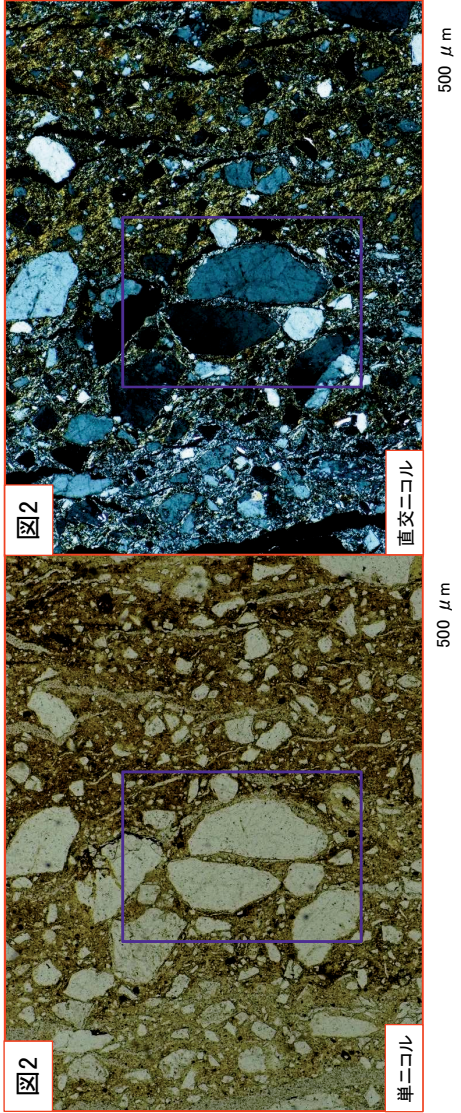


図1では、断層ガウジが異なる複数のゾーンに分帯されている様子が認められる。破線は認定したゾーンの境界を示す。



拡大

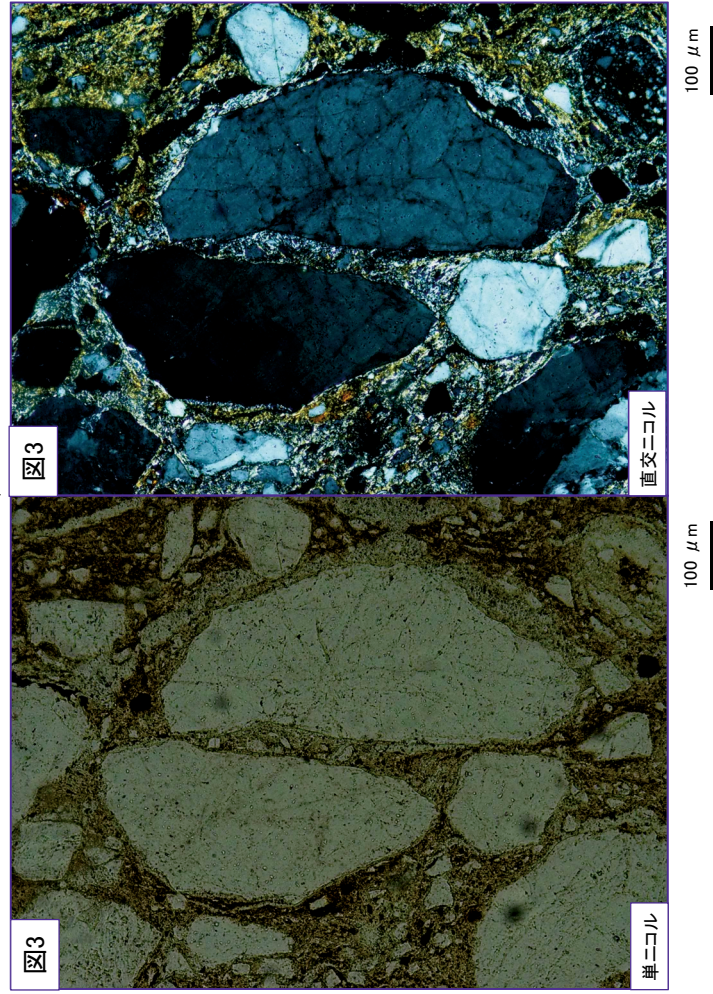
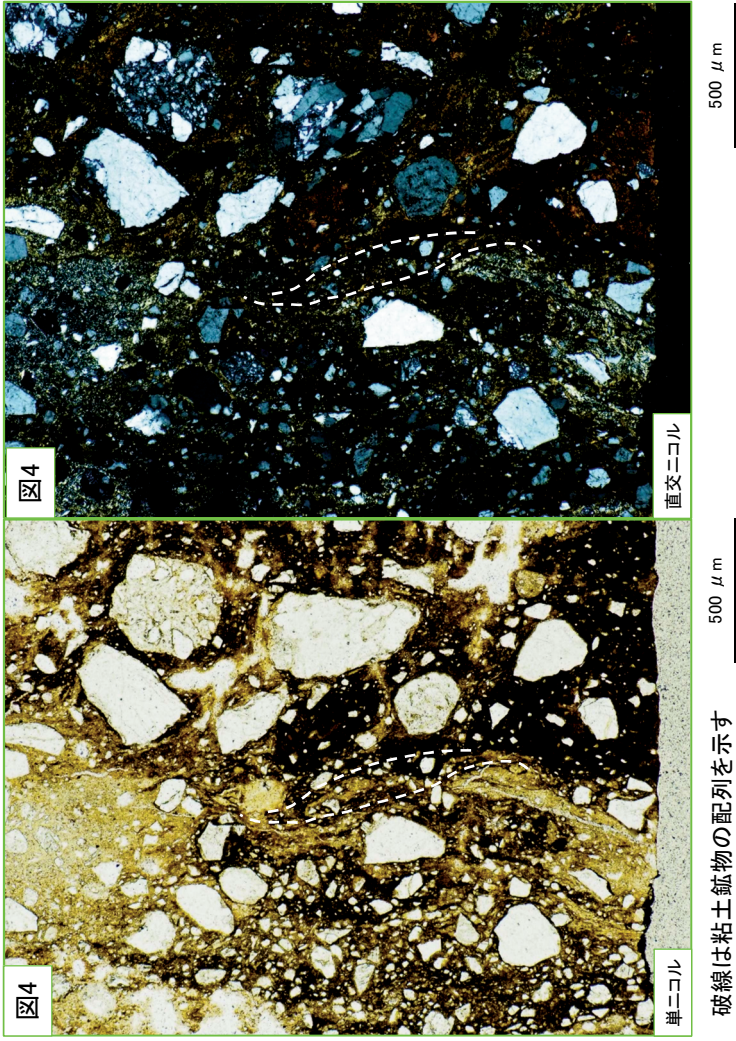
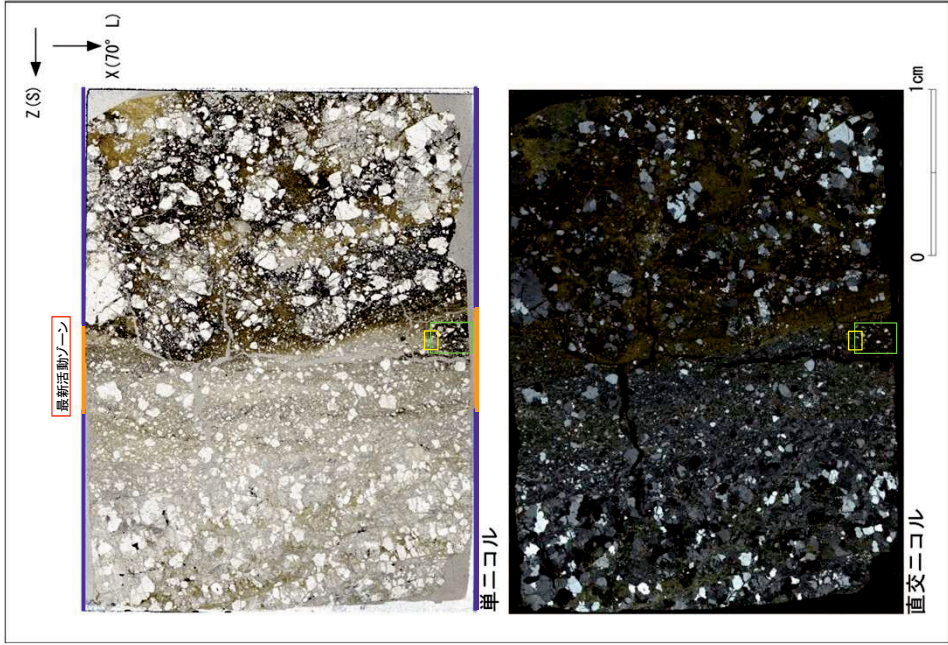
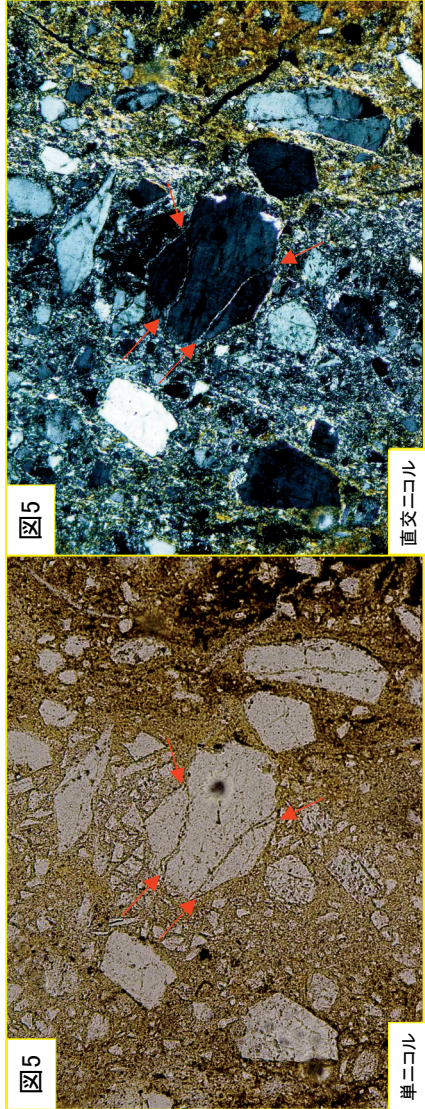


図3では、周囲に白色の断層ガウジを伴う岩片が、黄色の断層ガウジに取り込まれている様子も見られる。

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図4)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図4)
- 岩片は少ない。(図4)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図4)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図5)



破線は粘土鉱物の配列を示す



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す

(肉眼観察結果 区間②に対応するHc-1, 区間④に対応するHc-1)

- 肉眼観察では、粘土状部は、粘土状部は、軟質であり、細粒部の連続性及び直線性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面②に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面②は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。

薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。

- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.6	有

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。